

東北大学医学部保健学科 同窓会新聞

発行人 進藤千代彦
 発行所 東北大学医学部保健学科
 仙台市青葉区星陵町2の1
 編集人 東北大学医学部保健学科同窓会新聞編集委員会
 編集委員 半藤徹也、武石陽子、石塚裕也、長谷川大樹

ご退任される先生の挨拶

平成28年度をもって、検査技術科学専攻から進藤千代彦先生、看護学専攻から佐藤喜根子先生と、齋藤秀光先生がご退任されることになりました。これらの先生方から、ご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介致します。

臨床生理検査学分野

教授 進藤 千代彦



昭和53年に東北大学医学部医学科を卒業し、平鹿総合病院第二内科(循環・呼吸器)で3年間初期研修を行い、その後内科学第一講座(滝

嶋任教授)に入局し、肺機能グループで精密肺機能検査の習熟と呼吸中枢や呼吸筋に関する研究に参加しました。博士論文として呼吸筋酸素消費量測定装置の開発に携わり、昭和62年にはケースウエスタンリザーブ大学(米国クリーブランド)にresearch fellowとして留学の機会を与えていただきました。そこでG・Supinski教授から横隔膜筋の実験方法を教えてもらい、帰国後も横隔膜筋の収縮特性の研究を続けることができました。

平成3年に本学医療技術短期大学部衛生技術学科に助教授として赴任し、検査技術学科で主に臨床生理学の講義を担当することになりました。赴任した当時、今の教官棟(B棟)は旧薬学部の校舎をそのまま医療短大として使用していたので、古めか



しくやや薄暗い廊下を歩かなければならなかったのです。平成7年に教授に昇任しましたが、医療短大(3年制)から保健学科(4年制)への移行問題があり、高林俊文医療短大部部长から、その設置準備委員会の委員長を任命されました。困難を極めました。国立大学で最後の4校の内の1校として4年制になりました。この時、文部科学省に何度か出て設置説明に行く機会があり、一教授としては掛替えのない楽しい思い出となりました。めでたく平成15年10月に保健学科が設立され、東北大学医学部保健学科と名称変更となりました。同時に、平成16年4月に保健学科同窓会を設立するように医学部事務長から要請があり、これがかきつかけで同窓会が設立されることになりました。その後年次進行に従って、修士・博士課程の設置されましたことは、皆様の知



るところです。医療短大からいわゆる大学院大学へと変遷するのを目の当たりにすることになりました。医療短大時代には、循環、呼吸を含む総ての臨床生理学関係の講義と実習を一人で担当しなければいけなく、一日に講義、実習があると疲れがどつと出て大変な時期でもありました。臨床生理学の教科書を見れば分かりますが大変範囲が広く、自分の専門分野はほんの一部で、他に脳波、筋電図、超音波、MRIなど多くの生理学検査が網羅されていて、その講義準備で大変な思いをしたことを今でも思い出します。保健学科になって、三浦昌人准教授が赴任されて循環器関係の教科を担当してくれて、やや軽減しましたが、一方で大学院教育や全学教育があり、教育にさかれる時間は依然として多く、相変わらず多忙であることには変わりありませんでした。

研究としては、主に動物(マウス)を使った実験をしましたが、エンドトキシンによる横隔膜筋収縮の減弱効果、気管支喘息の治療薬である各種吸入剤の横隔膜筋への効果や、TLR4とIL33受容体のアダプター分子であるMyD88のノックアウト(MyD88KO)マウスを使ってその防御効果の検討などを行ってきました。これらの実験には、検査4年生の卒業研究や大学院の学生さんの協力によるところが大きく、世界的にも数少ない呼吸筋不全としての横隔膜筋の研究を長年にわたって出来ましたことは、臨床生理検査学分野の皆様や、東北大学動物実験施設等に心から感謝を申し上げます。

最後になりましたが、手探りで始めた保健学科同窓会活動も約10年

を経過することができました。年2回の同窓会新聞の発行に向けて、特に保健学科1期生からの修士、博士課程の学生さんのお手伝いがなければ、これまでの継続は不可能だったかも知れません。同窓会新聞、同窓会活動を支えてくれた、秘書の寺尾典子さん、小野弘子さん、同窓会副会長役をしてくれた齋藤秀光教授、そして幹事の学生さん方に心から感謝を申し上げます。これからも保健学科同窓会がますます発展されることを祈念しております。



周産期看護学分野 教授 佐藤 喜根子



70年代の学生運動最盛期から、若干下火になった頃に学生生活を送ったわが身にとって、花が咲いたきれいなコンテナが並び、かつ昼食時の静かな川内のキャンパスをみて、まさに隔世の感を感じ得ない。私が学生のころは、所狭しと立て看板が並び、休み時間はボリューム最大のマイクから、アジテーションが聞こえてくる喧騒の中で過ごすのが、学生のスタイルでした。

忘れがたいエピソードは、「当時、月1,000円だった国立大学の授業料を、将来30倍に値上げする」との発表で、反対した医学部学生自治会では定期試験をボイコットし、全員留年ということがありました。また当時沖繩へ行くのにパスポートが必要な時代で、「沖繩返還」を世の中が喜んでいたら、沖繩から来ていた学生は全く喜ばず、背を向けていました。当時その姿勢が理解できませんでした。当時の状況が理解できず予測していたかの状態だったなと今にして理解した次第です。そうそ



最後に、この東北大学という恵まれた環境で最高の仲間とともに学べることを誇りに思います。先生方、病院の皆さまご指導のほどよろしくお願ひします。

この病院実習は将来自分がどうありたいかを具体的に考えることのできる大変貴重な機会です。臨床の現場で活躍している技師さんの様子をしっかりと見てきたいと思ひます。また実習を通してでしか得ることのできない経験や実践的な知識をたくさん吸収し役立てていけたらと思ひます。

これから病院実習が始まるというひとつの節目として、ここまで僕たちを導いてくださった先生方、この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思ひます。入学してから今まで、優しく授業してくださり本当にありがとうございました。授業で学んだことを最大限に活かし、より多くのものを学んできたいと思ひます。また実際に臨床の場に出るといふことで、社会の一員として恥ずかしくない礼儀と責任ある行動を心がけていきます。

東北大学に入学して早2年半が経ち、私たちもいよいよ病院実習に臨むこととなりました。これまで、検



検査技術科学専攻3年
高橋 唯衣



査技術科学専攻の先生方やTA、技師さんの手厚い指導の下、勉強や学内実習に励んで参りました。その中では、実験の結果が思うようにならなかつたり、失敗をして試薬や検体を無駄にしてしまうこともありま

た。そんな時は、いつも私たちを見守り、解決のためのヒントを与えて下さる先生方がいました。しかし、病院実習では全て自分たちで考え、行動しなくてはなりません。患者さんに関わる機会も増え、自分の行動に対する責任も今までの倍以上になることでしょうか。患者さんの情報をふとした瞬間に友人に話したり、院内を歩く際に友人と並んでお喋りするといった私たちの軽率な行動で患者さんを不快にさせたり、病院に関わる多くの人々に迷惑をかけてしまう可能性ががあります。ですから、私は患者さんがどんな振る舞いをしてい



いる医療従事者に好感を持つか考え、

医療従事者としての自覚を持ち行動したいと思ひます。当たり前のことですが、慣れてきたころに気が抜けてしまわぬように、実習班の皆さんとお互いを鼓舞しながら実習に臨みたい

初めての父兄会を終えて
保健学科長 分子血液学分野
教授 清水律子

平成28年10月9日、医学部学生後援会(PTA)のご支援の下、初めての父兄会を行いました。医学



第23回東北大学医学祭が、平成28年10月9日(日)～10月10日(月・祝)に開催されました。東北大学医学祭は、市民の方々と医学部生との交流の場として約3年に1度開催されてきた伝統あるイベントです。これに際しまして、同時に行われた父兄会に参加された、清水保健学科長より、ご感想を戴きましたので、医学祭の写真と併せてご紹介させていただきます。

医学祭・父兄会



祭に合わせた開催でしたが、どぐらいの方々にご参加いただけると全くわからない状況でしたので、探りの状態で当日を迎えました。参加された保健学科のご父兄はそれほど多くはありませんでしたが、PTA (Parent-Teacher Association) の第一歩を踏み出すきっかけとなる、非常に有意義な一日であったと思ひます。

血液学を専門とする私は、人間の一生をよく血球分化にたとえて学生に話をします。血液の中には、赤血球や血小板、リンパ球や好中球などの、それぞれ特有の働きを持つ細胞が存在していますが、これらの数がほどよいバランスで存在するとともに、それぞれが持つ機能を十分に発揮することが重要です。血球は、あらゆる血球に分化できるという性質「万能性」を持った造血幹細胞が、少しずつ万能性を失いながら、ある特別な機能を獲得していき、やがては、その機能を100%発揮できる成熟血球に成長します。同じように、生まれたばかりの赤ちゃんは、すべての職種に就く可能性を持っています



が、小学校、中学校、高校と進学する過程で様々な経験をし、個々の将来像を少しずつ構築していきます。保健学科に進学した学生は、未熟な前駆細胞の成長途中であるわけですが、将来は医療関連の職種でその能力を発揮することが期待されています。ただ、医療関連という系列の中でも、まだまだたくさんの方々の選択肢があることを知ってほしいと思います。また、稀ではありますが、成熟した血球が先祖返り（脱分化）や別の性質を持った細胞に変化（分化転換）できるように、医療とは関連の少ない職種を選択することもあるでしょう。私は、若い学生さんたちには、自分が知らないたくさんの方々の可能性を持っていることを自覚して、いろいろなことを体験し、よく考え、知識を積み重ね、試行錯誤をしながらも、一人一人が自分の進むべき道を切り開いてほしいと思っています。そして、100%の機能を発揮する血球のように、自らの力を存分に発揮できる職業に就いていただきたい。4年間の学生期間を使って学生が最もすばらしい選択をできるように、私たち教員は、ご父兄の方々と協力して、干渉すぎないように見守っていきたくと考えています。



人事異動

平成28年度に行われた人事異動についてご報告いたします。この度は、ご退官される先生方以外では、看護学専攻のみに人事異動がありました。他2専攻においては人事異動はありませんでした。

●臨床生理検査学分野
教授 進藤千代彦先生
退官（平成29年3月31日）

●周産期看護学分野
教授 佐藤喜根子先生
退官（平成29年3月31日）

●精神看護学分野
教授 齋藤秀光先生
退官（平成29年3月31日）

●老年・在宅看護学分野
講師 齋藤美華先生
異動先・公立大学法人 山形県立保健医療大学保健医療学部 看護学科 教授（老年看護学）（平成28年9月30日）

●地域ケアシステム看護学分野
講師 原田奈穂子先生
異動先・宮崎大学 教授（平成29年3月31日）

●緩和ケア看護学分野
助教 佐藤一樹先生
異動先・名古屋大学大学院 医学系研究科看護学専攻 基礎・臨床看護学講座（成人看護学・慢性期看護学）准教授（平成28年12月31日）

●小児看護学分野
助教 鈴木祐子先生
退職（平成28年9月30日）

●老年・在宅看護学分野
助教 安藤千晶先生
着任（平成28年12月31日）

●がん看護学分野
助手 宮武ミドリ先生
退職（平成28年9月30日）

●老年・在宅看護学分野
助手 東海林志保先生
退職（平成28年10月31日）

●精神看護学分野
助手 柴田裕希先生
退職（平成29年3月31日）



写真は「東北大学大学院医学系研究科・医学部 Facebook」の平成29年3月7日の記事より。図書館前白梅VS保健学科棟前紅梅

お知らせ

◆保健学科同窓会について

東北大学校友会（しゅうゆうかい）は、創立100周年を迎えた2007年に次の大学づくりの礎として東北大学校友会として発足しました。同窓生に加えて、現職の教職員や在校生とその家族など、東北大学の関係者が会員となっており、部局別同窓会・登録同窓会・年次別同窓会の3つの基礎同窓会から構成され、本会運営の基礎単位となっています。この度、部局別同窓会（学部、研究科、附置研究所等の別により組織される同窓会のこと）に医学部保健学科同窓会が入会しましたので、お知らせ致します。

部局別同窓会一覧URL：
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/alumni.html#contents02>

保健学科同窓会では、卒業生の皆さんの情報を名簿として管理しています。結婚等による氏名変更や住所変更があった場合には、左記アドレスまでご連絡ください。
hoken@alumni.med.tohoku.ac.jp

◆平成29年度保健学科同窓会総会開催について

日時 平成29年7月7日（金）
午後5時30分より
場所 保健学科大会議室（予定）
総会に引き続き、3専攻の同窓生からの帰朝報告があります。学部生・同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

◆立体駐車場新設

保健学科D棟と医学部5号館との間に立体駐車場が新設されます。本

年3月末完成予定です。
【リンク】
本同窓会ホームページURL：
<http://www.hoken.alumni.med.tohoku.ac.jp/>

本同窓会Facebook URL：
<https://www.facebook.com/Alumni.Schoolofscience.med.TohokuUniv/>

東北大学大学院医学系研究科・医学部ホームページURL：
<http://www.med.tohoku.ac.jp/index.html>

Tohoku University School of Medicine (東北大学大学院医学系研究科・医学部) Facebook URL：
<https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine/>

編集後記

平成28年度最後の新聞が完成しました。快く編集に協力して下さいました皆様のおかげで、様々な内容の記事を紹介することができました。少しでも目を通していただければ幸いです。年度末の忙しい時期に寄稿してくださった先生方、学生の皆さん、本当にありがとうございます。また、毎回きれいな写真を提供していただいております。一様はじめ医学部広報室の皆様には感謝いたします。

半藤徹也、石塚裕也、武石陽子、長谷川大樹